

---

# 鉄おん！

JR東日本

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鉄おん！

### 【Nコード】

N5980J

### 【作者名】

JR東日本

### 【あらすじ】

今回は鉄子の旅一行の5人ときなこちゃんを桜が丘高校軽音楽部5人と憂でやってみました。

## 第0旅 音楽と鉄道の相互乗り入れ企画（前書き）

少し失敗してしまうかもしれませんが、上手くいったら最後まで読んでみてください。

## 第0旅 音楽と鉄道の相互乗り入れ企画

登場人物は以下のような割り振りで行きます。 横見さん 唯

キクチさん 梓 カミムラさん ムギ イシ

カワさん 漣（役柄は会わないんですが、他にいないので。）

編集長 律（漣同様に役柄は会わないんですが、他にいないので。） きなこちゃん 憂 ? 注意点?

（1）和とさわちゃん は未登場です。 （2）話

に鉄ヲタ的な部分があり、けいおん！のキャラクターのイメージが崩れる可能性があります。 （3）けいおん

！の要素（唯が梓にスキンシップをしてくる、漣が恥ずかしがりや、ムギが普通のことには憧れるなど）は含みますが、鉄子の旅の要素（イシカワさんが旅の途中で帰る、編集長が鉄道をけなしたり、駅名を間違えたりするとキレル、キクチさんが駅弁の話になるとテンションが上がるなど）も含みます。（4）列車の時間は2010年1月号の時刻表を参考にします。

## 第1旅 あけぼの・リゾートしからみ・津軽三味線・りんご大満喫（計画編）

今回の旅は、鉄子の旅の第9旅をベースに作りました。後、憂は  
今回の旅には、登場しません。次の旅に登場します。

「ねえ、今度、弘前に津軽三味線見に行こうよ。」

唯が突然そんなことを言い出した。「あら、唯ちゃんどうして？」とムギが不思議そうに答えると、唯が「三味線を聴くことも、音楽の勉強にもなって、軽音楽部の活動の一環にもなるじゃん。それに今は、弘前はりんごがおいしいよ。」と言った。すると梓は「（本当はりんごが目的ですね。）」と心の中で思った。梓「私は反対です。冬休みも終わりましたし、第一、弘前までの費用がありませんよ。唯先輩が全員の費用を負担してくれるなら別ですけど。」

唯「別に良いよ。」 澪「別に良いって、唯は確かお小遣いは月に¥5000ぐらいじゃ？」 唯「そうだけど、この前、おじいちゃんとおばあちゃんからお年玉たくさんもらったし、それに、お父さんからこれもらったんだ。」

唯は切符らしきものを5枚制服のポケットから取り出した。それは3日間、北東北（青森・秋田・岩手）を鉄道でまわれるやつだった。しかも、それは、新幹線は乗れないが特急と急行には、回数に限りがあるが乗ることができる。

唯「上野から寝台特急の「あけぼの」って言うのが青森まで走っていらしいから、これを使って弘前に行こうよ。再来週から6日間、入学試験で休みになるわけだしさ。」 梓「でも、やっぱり反対です。私はその休日を練習に使った方が良いです。唯先輩もそう思いますよね？」

律はコーヒーを飲みながら「良いんじゃない。行こうぜ。」ムギも「おもしろそうだわ、唯ちゃん、行きましよう。」と2人は唯の計画を了承してしまった。

梓「さすがに、澪先輩は反対ですよな？」

澪「うーん、私も最初は反対だったけど、よく考えてみると、三味線を見に行くのも、唯の言う通り勉強になるし・・・うん、私も行こう。」 その言葉に梓はシヨックを受けた。

梓「私はあくまで、反対で

す。」「律「でも、梓。入試の時は最終日を除いて、敷地内に入るの禁止だぜ。」「梓「でも、絶対反対です。」「

紬「でも、梓ちゃんの大好きな駅弁が食べられるわよ。

梓はムギの駅弁のことを口に出したことに  
よって少し考えて  
梓「しろう

がないですね。今回だけ、特別ですよ。」「

律「さすが、ムギ。」「唯「寝台特急「あけ  
ぼの」は21時15分に上野駅を発するから、休みの初日に20  
時丁度の上野駅中央口集合ね。」「梓「唯先輩、それは

早すぎませんか？」「唯「早く行かないと列車をじっくり見  
れないからね。」「梓「（今回の旅はなんか先  
が思いやられそうです。）」「

こうして桜が  
丘高校軽音楽部の弘前への旅が計画された。

第2旅 あけぼの・リゾートしからみ・津軽三味線・りんご大満喫（上野駅始

出発当日、上野駅PM7:55。梓は少し前の山手線で到着し、集合場所にむかっていた。

梓「（はあー。唯先輩は練習を殆どしないのに、なぜ、こうゆうのだけは思いつくんですか？）」「PM7:59梓は集合場所に到着した。そこには、律、漣、紬が先に到着していた。

漣「梓、こつちだ。」律「梓ぎりぎりセーフだな。」梓「あれ？唯先輩は？遅刻ですか？もう！唯先輩が早めに集合してって言ってましたのに。」

紬「あ、唯ちゃんならあそこに・・・」唯「あずにゃん、遅い。後、30秒遅かったら、あずにゃんの携帯に電話してたよ。」

梓「やっぱり唯先輩はもう到着していたんですか？」唯「もちろん。PM3:00過ぎには、もう上野にいたよ。みんなもこのくらい早く来ないと。」梓

「それは、早すぎですよ。第一、4時間以上も何やってたんですか？」唯「プラットホームで駅のアナウンスや発車メロディーを聞いたり、山手線や京浜東北線や宇都宮線（東北本線）や常磐線の車両を見てたりしたよ。まあ、駅の人からは変な顔されたけどね。」

梓「（唯先輩は、やっぱりおかしな人です。）」「律「この後、どうすんだ？まだ発車まで1時間以上あるぜ。」紬「じ

ゃあ、あそこに喫茶店があるから、そこでお茶にしましょう。」

律「Niceだ。ムギ。」唯「ちよつと待った。」律「なんだよ

？唯。」唯「りつちゃん、お茶より前に、寝台特急「あけぼの」で食べる駅弁が先だよ。」紬「唯ちゃん。それは、

食堂車か車内販売で済ませれば良いんじゃないかしら？」

唯「ムギちゃん。何もわかってないね。話にならないよ。食堂車は東北の寝台特急は昭和57年に九州の寝台特急は平成5年に廃止されて、今も食堂車を営業している列車は「北斗星」、「カシオペア」、「トワイライトエクスプレス」しかないんだよ。今の3



つの列車は料金が高くてとても私達には手が届かないよ。車内販売だって殆どの寝台特急が廃止しちゃって、「あけぼの」は幸い車内販売はやってるけど、朝しか行わないよ。」

「ムギ。」 紬「澪ちゃんまで！」 律「じゃ、早く買いに行こうぜ。」

5人は駅弁を中央改札口付近の駅弁屋で購入した。

購入した駅弁      唯    上野弁当 ¥1000      律    大工

比天丼 ¥650      澪    つくね弁当 ¥880      紬    銀ダラ弁当

¥850      梓    吉野の鶏飯 ¥650      共通    おーいお茶 ¥1

20      PM8:28    5人は「あけぼの」

で食べる駅弁を買い終えて、唯は時刻表で明日のルートの確認。紬は旅の記録をメモしており、澪は駅構内の写真を撮影しており、律は自動販売機で缶コーヒーを買って飲んでおり、梓は携帯で時間を確認していた。

PM8:46    上野駅中央改札口

唯「じゃあ、そろそろ行くよ。」

梓「唯先輩、まだ発車まで30分近くありますよ。」

唯「何言ってるのあずにゃ

ん。寝台特急は運転所から始発駅に到着する姿を見てやっと旅が始まり何だよ。」

澪「そうだぞ。梓。」

梓「澪先輩まで。」      唯「なんて話していたら発車まであと2分しかないよ。みんな急ぐよ。」 改札口を唯、澪、律、梓の順番で通った。しかし、ムギだけがなかなか改札を通らない。

梓「ムギ先輩。どうしたんですか？」      紬「ちよっと、切

符が見当たらなくて。」      ムギが戸惑いながら言うつと、

唯「切符なくしたの!？」      唯が怒鳴った。

唯「探して!早く探して!！」      梓「……」

。      唯「財布は!？ バックは!？ ポケットは!？ 靴の中は!？」      紬「あ……あ……あつたわ。唯ちゃん。」

ん。」      ムギの切符はムギの携帯電話に挟まっていた。      唯「良かった!    じゃあ行こう。」      梓「!」

紬「必ずあると思ってたの。それじゃ行きましょう。梓ちゃん。」

梓「！！」

唯「ムギちゃんが切符を本当になくしたら、旅行が低いまま終わってたよ。」

ごめんね。唯ちゃん。」

唯「でも、切符は見つ

かったし、別に良いよ。」紬「本当？良かったわ。」梓「本当に今回の旅は大丈夫なんですか？」PM9：07上野駅13番線ホーム

唯「来たよ！来たよ！見て見て あずにや

ん、ムギちゃん、漣ちゃん、りつちゃん。」

律「おお、

感動的だ。」漣「いよいよ、出発だな。」

寝台

特急「あけぼの」のホーム入線に感動し思わず涙を溢している唯・漣・律の3人。しかし、ムギは 紬「????？」

3人の状況を理解していなかった。一方、梓は 梓「そこまで感動することですか？」 3人に呆れていた。

PM9：10 5人は「あけぼの」に3号車に乗り込んだ。

律「いよいよ、発車だな。」

唯「わくわくし

ちゃって、夜、眠れそうもないよ。」

漣「寝な

いと寝台特急に乗った意味がないだろう。」

3

人（特に唯）は「あけぼの」に乗ったことで、いつも以上にテンションが上がり、梓が3人のテンションについていけないでいた。

梓「唯先輩達のテンションについていけません。ムギ先輩、何か言ってください・・・って、かなりうつとり見てる。」

PM9：15 寝台特急「あけぼの」は定刻通りに上野駅を出発した。

第2旅 あけぼの・リゾートしからみ・津軽三味線・りんご大満喫（上野駅

梓「JR東日本さん、この後、私達はどのようなんですか。」

JR東日本「それは、次回の楽しみです。まあ、

でも、従来の鉄子の旅はいろいろと予想外な出来事が有るから、梓も気をつけた方がよいよ。」

梓「初めから不安だったのが、更に不安になりました。」

第3旅 あけぼの・リゾートしらかみ・津軽三味線・りんご大満喫（寝台特急）

PM9:24 「あけぼの」車内5人は上野駅で買った駅弁を食べながら、車窓を見ていた。 唯「発車してからもう1

0分経ったね。」 律「んじゃ、そろそろ大宮だな。」

唯「りっちゃん。大宮は21時41分着だからまだ10分以上あるよ。」 律「結構かかるな。先に駅弁食べようぜ。」

唯「だめだよ、りっちゃん。駅弁は出発して、30分後ぐらいに食べるのが、一番美味しいんだから。」 律「そ

んなこと言わずに早く食わせろ。」 零「律。唯の言う通り、

早く駅弁食べたって、美味しくないし、寝ている時、空腹と戦わなければいけないぞ。我慢しろ。」 律「ーった

く、わかったよ。」 そんなことを話しているうち

に時刻は21時40分、寝台特急「あけぼの」は大宮に到着。約1分後発車した。 唯「大宮も通過したし、そろそろ

駅弁を食べよう。」 律「待ってました。」

5人が揃って「いただきます。」と言うと、律は一目散に駅弁を食べ始めた。唯と零は「もつと景色を眺めて食べれば良いものを。」と律に呆れていた。唯・零・紬・梓は車窓を見ながら駅弁をゆつくり食べた。 PM10:36 駅弁を食べ終わり5人はやる

ことがなく退屈していた。 律「あー。暇だ。唯、なん

かすることない。」 唯「うーん、私もトランプも何も持ってきてないんだよね。あつ、そうだ。時刻表があるから、他の列車の時間でも調べよう。」 零・律「いや、それは良いや。」

唯「うーん。他にやることは。あつ、そうだ。ギーター  
太を持ってきたから、何か演奏しよう。」 律「お

ー、良いな。」 紬「私は、お茶をもう飲んじやったから、もうすぐ、高崎駅に着くから、そこで買いに行くけど、みんな何か欲しいものがあるなら、ついでに買ってくるけど。」 律「んじゃ、

頼むわ、ムギ。私はホットコーヒー。種類は何でも良いや。」

唯「私はフアンタグレープ。」

漣「わ、私は烏龍茶を。」

梓「私は良いです。」

「紬「梓ちゃん。別に遠慮しなくても良いのに。」梓「別にそんなことないです。」

律「ムギはお財布なんだから遠慮するなつて。」梓「（律先輩は少しは遠慮してください。後、今失礼なことを言いませんでした?）」

紬「それじゃあ、唯ちゃん。私はみんなの文を買ってくるから、演奏は私抜きで始めて。」唯「わかった、ムギちゃん。」

M10:43 高崎着

唯はギターを手にした。

唯「じゃあ、そろそろ始めるけど、何を演奏して欲しい?」

律「そうだなー、せっかく「あけぼの」に乗ってるわけだし、「特急田中3号」の主題歌「喜びの歌」が良いんじゃない?」唯

「よし、それでいこう。」

唯はピックを持った。

唯「それじゃ、始めるよ・・・タララン・・・」

演奏を始めて少しして、唯「生きてるなら、それだけで、

「車掌「お客さん!!」」突如車掌が現れて、4人

（紬はまだ戻ってきていなかった。）に説教を始めた。

車掌「車内でギター演奏をしないでください!!この列車にあなたたちの他にもお客さんが乗っていて、もうお休みになられている方もいるんですよ!!」

唯・梓・漣・律「すみません。」

車掌「お客さんの中には、心臓の悪い方も乗っていることありますし、それに・・・」

説教は30分以上続いた。車掌「良いですか!!今度車内で迷惑をかける行為がございましたら、乗車券に関わらず、次の駅で降りてもらいます。」梓「すみませんでした。」

車掌は別の車両に移動した。

唯「はあ、せっかく

盛り上がった来たのに。」梓「今のは、先輩が悪いですよ。」

漣「でも、これからどうしよう?」

律「ん

じゃ、少し早いけど、もう休むか?」漣「そうだな。」

P M 1 1 : 3 5 ようやく、紬が戻ってきた。

紬「ごめ

んなさい。みんなのいる場所を間違えちゃったの。あら？」　そこに4人の姿はなかった。実は、4人ともすでに就寝していた。いつもなら、床について、しばらく起きているんだが、しかし、今日は、疲れていたのか、4人ともぐっすり眠っていた。紬は起こさないように律にはマックスコーヒーを唯にはフアンタグレープを漑には烏龍茶をそれぞれの枕元に置き、紬も就寝した。．．．．．翌日A M 6 : 0 0 頃 紬は起床した。紬が顔を洗いに洗面所に行くと、そこには、唯がいた。唯「おはよう。

ムギちゃん。」

紬「おはよう。唯ちゃん。今日は

早起きなのね。」

唯「うん。さっき、ムギち

やんの買ってきてくれたフアンタグレープを飲もうとしたら、車窓から朝日の昇るところが見えて、私、あの時はまだ眠かったんだけど、朝日を見たら感動しちゃって、そのまま目が覚めちゃったの。ムギちゃんも早起きして見れば良かったのに。」

紬「そうね。よし、私も次に寝台特急に乗ったら、朝日の昇るところを絶対に見るわ。」　唯「ムギちゃん。がんばって。」

紬「うん。」

その後、梓、律、漑も起床し

た。

A M 7 : 0 0 「あけぼの」車内 律「唯。ま

だ車内販売来ないのか？」

唯「ううん。車内販売は秋田

から乗り込むからそろそろ来ても良いと思うんだけど。」

紬「きつと、時間がかかっている人がいるのよ。もう少し待ちましよう。」　漑「そうだな。」　A M

7 : 1 8 漑「いくらなんでも遅くないか？ムギ。」　紬「そうね。どうしたのかしら。」　唯「あつ。車掌（昨夜、説教し

たのとは別の人）さんがいるから私、ちよつと聞いてくる。」

唯は車掌に近づいた。唯「あー。すみません。」

車掌「はい。何でしょうか？」

唯「車内販

売はいつ頃来ますか？」

車掌「車内販売ですか？」

唯「はい。」

車掌「この「あけぼの」

の車内販売は平成21年3月をもって廃止されたんですよ。」

唯・梓・紬・澪・律「へっ？」

5人は

一斉に驚いた。唯「ごめん。車内販売は廃止されたの知らなかった。」

律「ごめん。じゃねーよ。ウチらの朝飯

どうすんだよ。」

紬「まあまあ。唯も悪気はなかつ

たんだから。それと、そんなこともあるだろうって、高崎の駅でこれ買ってきたの。」とムギが取り出したのは、「雪苺娘<sup>ゆきいちじ</sup>」という大福で、高崎駅の名物である。紬と澪は上品にゆつくりと食べ、3人は夢中で雪苺娘を食べた。

律「ガツ、ガツ、

・・うま。」

梓「本当ですね。皮が柔らかくて美味

しいですね。」

唯「ありがとう。ムギちゃん。

感謝するよ。」紬「いえいえ。」5人は雪苺娘を食べ終わ

り午前9時18分「あけぼの」は弘前に到着した。

第3旅 あけぼの・リゾートしらかみ・津軽三味線・りんご大満喫（寝台特急

梓「JR東日本さん。弘前と言えば弘南鉄道がありますよね。」

JR東日本「うん。あるね。弘南鉄道は廃線もあるから、横見さんなら廃線を始点から終点まで歩きそうだな。」 梓「へ

っ?」 JR東日本「でも、大丈夫。唯はそこまでしない

と思うから。でも、横見さんも唯も一つことやりだすと他のは見えないからなあ。」 梓「やっぱり、唯先輩でも、不安で

す。」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5980j/>

---

鉄おん！

2010年10月9日19時04分発行